

私の国内留学体験記

北海道大野記念病院 整形外科 阿久津 祐子

聖隷浜松病院手の外科マイクロサージャリーセンターで、2008年からクリニカルフェローとして研修させていただきました。当時、広大な北海道の地域事情上、ハンドセラピーをしっかりと行える病院は大学病院以外では難しく、日々悩んでいました。所属していた札幌医大は国内留学に理解があり、どこかで勉強したいと考えていました。新潟手外科セミナーに参加した折、斎藤英彦先生の解剖の講義に感銘をうけ、所属施設を検索し、見学、研修を決意しました。

フェローであっても、常勤の先生と同様に治療に参加する機会があたえられます。朝のカンファレンスでは、医師、ハンドセラピストが一堂に会し、術後症例、手術予定の症例について検討します。プレゼンがうまくいかないと手術が認められないため、なんとか、予定された日に手術ができるように、連日遅くまで計画をたて準備しました。前半は前年からおられた千葉大学河野先生、後半は鳥取大学山下先生と一緒に学び、見学に来られる他施設の先生方とも交流がありました。名古屋大学にも見学に行かせていただきました。今まで培ったものとは違う環境、視点を知ることが非常に有用だと実感しました。大井先生は常に患者さんの将来を見据えて治療しなさいとお話されておりました。現在でも常に意識しています。斎藤先生より、直接解剖の講義をうけ、大井先生の手術の技術を直接みて学び、神田先生、向田先生、研修医だった鈴木先生に、臨時手術でも遅くまで指導していただいたことが現在の礎になっております。スプリント作成もセラピストに教えていただき、ハンドセラピーへの理解が深まりました。違う施設での研修は、新たな道が開くチャンスだと思います。

